

滋賀県気候変動適応センター 活動状況報告

令和5年9月5日（火）

第10回気候変動適応近畿広域協議会資料

滋賀県気候変動適応センター

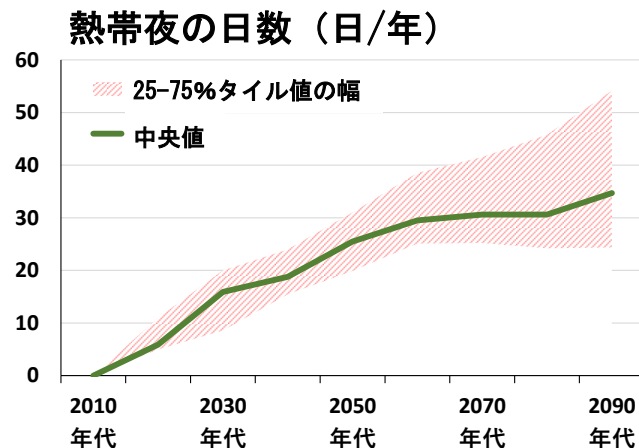
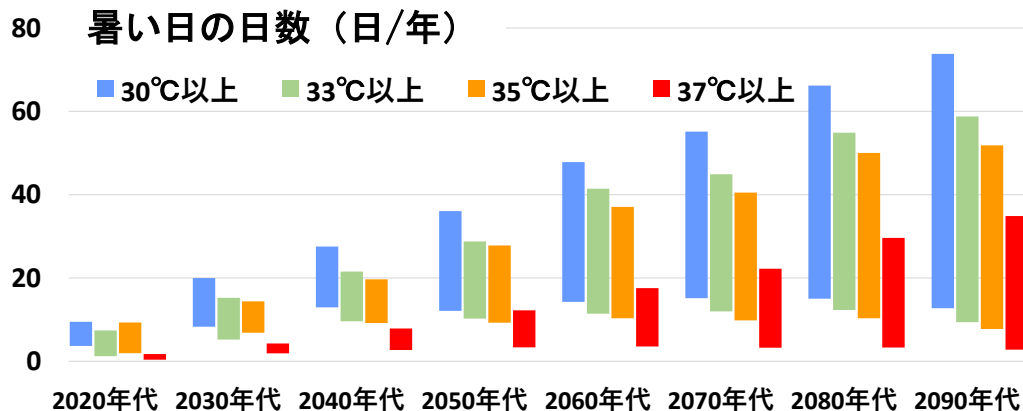
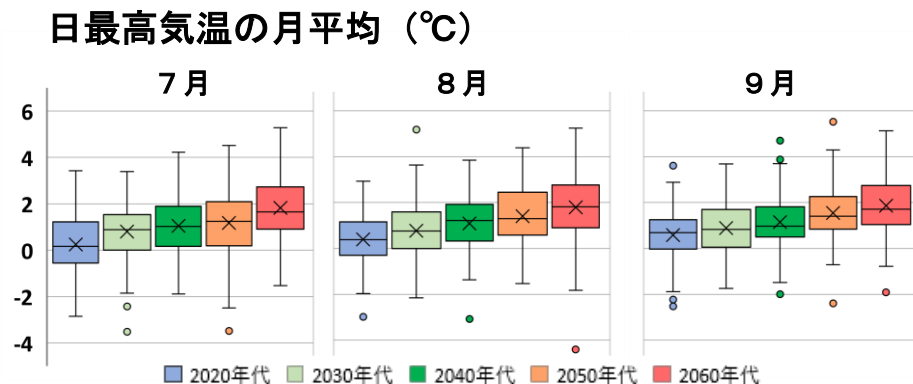
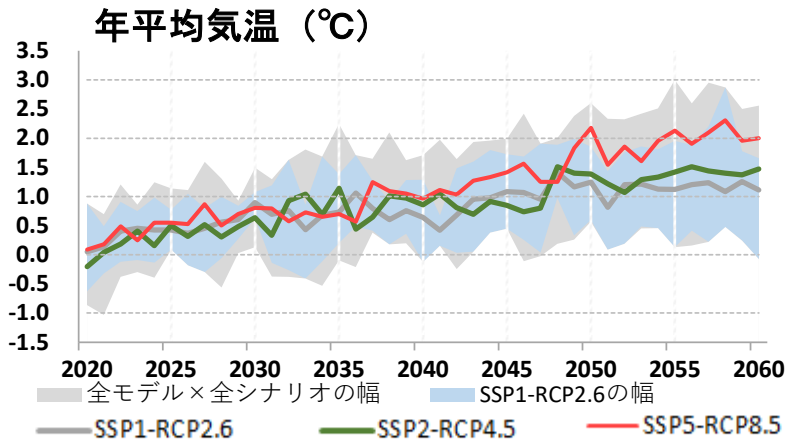
滋賀県気候変動適応センターの活動（1）：将来気象予測の整理

県民が身近に感じている影響：県民の気候変動影響に関する意識調査では、気温上昇への認識が高くなっている。適応策の啓発、影響評価や適応策検討のための基礎情報整備として将来気象予測を市町別に整理。

内容：2010年代（2010～2019）からの差を図化。

項目：年平均気温、夏季の日最高気温の月平均、猛暑日や熱帯夜の日数

＜2010年代からの差：大津市の例（使用データ：NIES2020 ver.1）＞

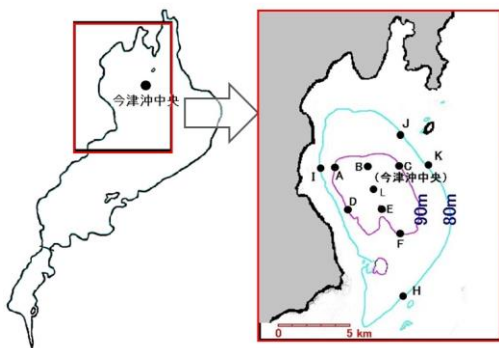


滋賀県気候変動適応センターの活動（2）：D0のモニタリングと影響分析

琵琶湖ですでに現れている気候変動影響：水温上昇に加え、全層循環（上下混合）が不完全となることにより、深水層の溶存酸素が少なくなり、生態系への影響が懸念されている。（2018(H30)年度、2019(R1)年度に、全層循環が未完了となった）

内容：琵琶湖の底層における溶存酸素（D0）及び水質の状況のモニタリング。気候変動影響分析（水温上昇による琵琶湖への影響）も開始。

3年ぶりに全層循環

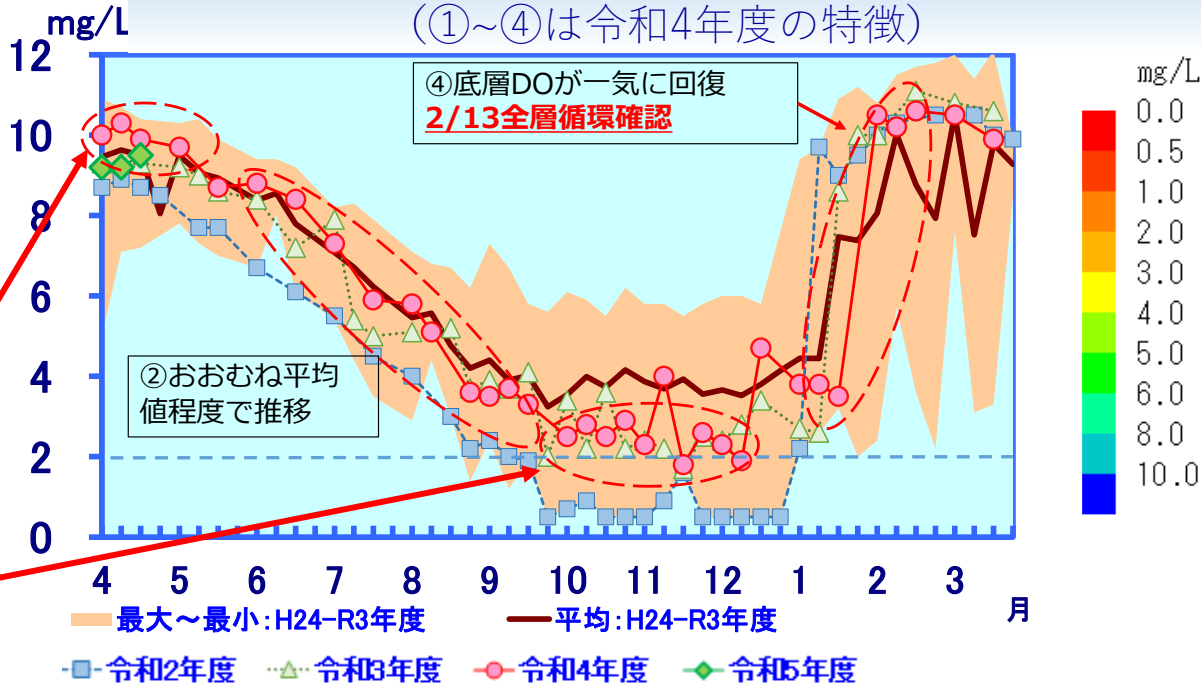


令和2年度の調査地点の状況（底層溶存酸素量の枯渇）



2年連続全層循環未完了

今津沖中央（C点）の底層溶存酸素量の経月変動（①～④は令和4年度の特徴）



北湖深水層（底層D0）調査地点（水深 約80mや90m地点）

①R3年度の全層循環完了を経て4年ぶりに4月の底層DOが10mg/Lを超える高い値

③10月前半頃から平均値を下回る。遅い時期(11/21)に2mg/Lを下回った。